



# CEReS

## Newsletter No. 74

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング  
研究センターニュース 2012年01月  
発行：環境リモートセンシング研究センター  
(本号の編集担当：樋口篤志)  
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857  
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

### 平成23年度 千葉大学環境リモートセンシング研究センター 修士1年生中間発表会



2012年1月12日に千葉大学環境リモートセンシング研究センター102講義室にて、平成23年度(4月と10月入学)の大学院理学研究科ならびに融合科学研究科所属の修士課程1年生の中間発表会を実施しました。本発表会は、各研究室で実施した研究成果を紹介し、センター内の研究室間の交流事業、という位置付けもあります。これからも、各学生の研究がより発展するように期待します。各研究室の発表タイトルは下記のとおりです。

理学研究科所属学生による発表タイトル

樋口研：1. 熱帯降雨観測衛星 TRMM PR と TMI による降雨データの比較

高村研：2. Lidar データを用いた千葉・福江島・辺戸岬におけるエアロゾルが放射収支に与える影響に関する研究

3. 準リアルタイム衛星推定全天日射量の SKYNET 日射計観測データによる地上検証

4. 低地における洪水ハザードマップの作成に関する研究

建石研：5. 多時期 MODIS データを用いた土地被覆変化検出に関する研究

(Land over change detection using multi temporal MODIS data)

6. 南米大陸の土地被覆マッピングに関する研究

7. 広域土地被覆分類手法の比較に関する研究

近藤研：8. リモートセンシングによる谷津田の土地利用変化に関する研究

～北総台地における谷津田の耕作放棄地の実態～

9. 福島県における放射線量の減衰と地形解析

10. マクロスケールでみた外来種の生息に影響する環境要因に関する研究

－千葉県におけるアライグマ・カミツキガメを事例として－

西尾研：11. 積雪中の雪氷藻類と含水率の関係

融合科学研究科所属学生による発表タイトル

久世・齋藤研 12. Observation and model studies of air pollutant distributions in Chiba city

- 本多・梶原研: 13. 属性付 DSM 取得に関する研究  
14. 昼光の分光スペクトルにおける時間的变化  
ヨサファット研: 15. GPS-RO センサ搭載小型衛星の開発  
16. Development of 9.41 GHz Weather Radar

(教育委員会委員長 ヨサファット テトオコ スリ スマンティヨ)

## Short Visit・Short Stay Program プレ・ダブルディグリッププログラム



千葉大学に来校したインドネシアの大学院生



日本語のガイダンス



合成開口レーダ画像信号処理の講習会



センター内にて見学

千葉大学の6協定校（インドネシア大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学、パジャジャラン大学、ウダヤナ大学、ハサヌディン大学）より16名の大学院生が2011年11月28日より15日間に千葉大学に来校しました。この16名の学生が医学、薬学、園芸学、リモートセンシングなどの分野を勉強・研究するために、来校しました。このプログラムはJASSOとインドネシア国家教育省海外協力庁（DIKNAS-BKLN）の支援により実現しました。また、当センター大学院生3名がインドネシア大学、バンドン工科大学、パジャジャラン大学にて、無人航空機と小型衛星の研究を勉強するために、同プログラムで派遣しました。

このプログラムでは、合成開口レーダ画像信号処理の講習会をはじめ、日本語の講義、日本文化（着物着け、茶道、折紙など）などの紹介もしました。これによって、リモートセンシング分野の最先端な技術に加え、来校した学生たちは日本の良さも知ることができました。短期間ではありませんが、受け入れをサポートしてくださった全てのみなさまに感謝します。

(ヨサファット テトオコ スリ スマンティヨ)

## 文部科学省研究振興局学術機関課二瓶稔之係長 CEReS 訪問

2012年1月26日(木)午前、文部科学省研究振興局学術機関課の二瓶稔之係長がCEReSを訪問されました。スライドによりCEReSの概要を説明した後、研究棟では大気データ取得用ライダー装置、衛星データアーカイブ装置を、また、共同棟では植生3次元計測用の無人ヘリ、無人小型航空機と電波無響室を見学していただきました。その後、総合研究棟に移り、8階での地理情報解析室、地図資料室やパネルに基づく研究成果の説明に引き続いて、総合研究棟屋上でPPI装置を含むライダー観測室とSKYNETサイトを見学していただきました。その後、会議室で研究センターをとりまく状況などについての意見交換を行いました。

今回の訪問は、環境リモートセンシング拠点としてのCEReSの研究状況を把握していただくよい機会になったのではないかと考えています。(文責 久世宏明)

参照：多波長ライダーシステム→Newsletter/2011年8月号、無人小型航空機→2010年8月号、  
電波無響室→2008年2月号

## NOAA/AVHRR 受信・プロダクト処理システムが刷新

2010年10月の点検停電後、これまで10年以上稼働していたNOAA/AVHRR受信システムの基盤そのものが故障し、NOAA/AVHRR受信、データ公開が中断してしまいました。昨年度末に新規受信、データ処理システムを導入することができ(左下写真)、2011年中盤より新規システムでこれまでと同様にNOAA/AVHRRデータの公開ができるようになりました。現在では後継衛星シリーズとなるNPOESS (National Polar-Orbiting Operational Environmental Satellite System)の前段階となるミッション(NPP: NPOESS Preparatory Project)衛星が2011年10月28日に打ち上げられており、NOAA/AVHRRシリーズはNPOESSの本格運用とともにその役割は終了となりますが、長期観測の継続性の観点からデータ取得・および公開は意味があると思います。本システム刷新では通常の申請とは異なり、かなり無理なお願いではありましたが、大学本部からのサポートを得ることが出来ました。ここに記し、感謝の意を示したいと思います。(文責 樋口篤志)



刷新された NOAA/AVHRR 受信システム



Database wiki で最新の受信画像公開中